

「第 29 回国際高血圧学会開会式」秋篠宮皇嗣殿下お言葉（和文仮訳）

2022 年 10 月 12 日

第 29 回国際高血圧学会が「高血圧制圧の叡智」のテーマのもと、日本の古都京都で開催され、Web での参加を含め、国内外の多くの皆様とともに開会式に出席できますことを大変嬉しく思います。

貴学会は、高血圧及び関連する心血管疾患に対し、安全で質の高い医療を提供するための提言を累次にわたって出されてきました。また、会員の方々には、各国各地域の医療を献身的に担うとともに、次世代医療の創出に向けた研究活動に日夜取り組まれていると伺っております。皆様のご尽力に対し、深い敬意と感謝の意を表します。

この会議は、16 年ぶりに日本で開催されますが、高血圧研究に非常に大きな役割を果たしてきた「高血圧自然発症ラット」は、ここ京都にある京都大学で開発されました。また、日本においては、血圧調節に関連する（ヒト）アンジオテンシンⅡの発見、それらを応用した新しい薬剤の開発や正確な家庭用血圧計の開発など、数多くの研究成果があります。研究の成果を世界の研究者が協力して、社会に知らしめることによって、高血圧学の礎を築いて来られたことを喜ばしく思います。

さて、生き物の進化史に思いを馳せると、魚類は低血圧生物であることが知られていますが、その後の過程において、生物が海から陸に上がる際には、体内に塩分を貯め、血圧を維持する機構が発達したと考えられています。これは進化を考える上で非常に重要なことです。しかし、現代社会の人類にとっては、この機構の発達によって必要以上に塩分が貯まりやすくなり、高血圧を引き起こす一因になっており、延いてはさまざまな疾病へも繋がっているそうです。このことは、適応によって得られた特質と生活習慣との関係を考える上で興味深い事柄かと思えます。

世界保健機関によれば、現在、世界の延べ 10 億人以上が高血圧です。また、高血圧と認知されていない人や、認知されていても十分な治療を受けていない人も多いと承知しています。高血圧は、生活習慣が大きく関与する非感染性疾患の代表格で、世界保健機関では、2030 年までにその有病率を 2010 年時点から 33%減少させることを目標に掲げております。そのためには、個人の健康意識の改善による行動変容が必要であり、本会議でもこの目標の達成に向けた議論がなされることは、大変意義深いことです。

おわりに、食・運動・AI を柱に行われる本会議の議論を基に、皆様が今後高血圧学のさらなる発展に寄与し、人類の幸福に貢献されることを願い、開会式に寄せる言葉といたします。